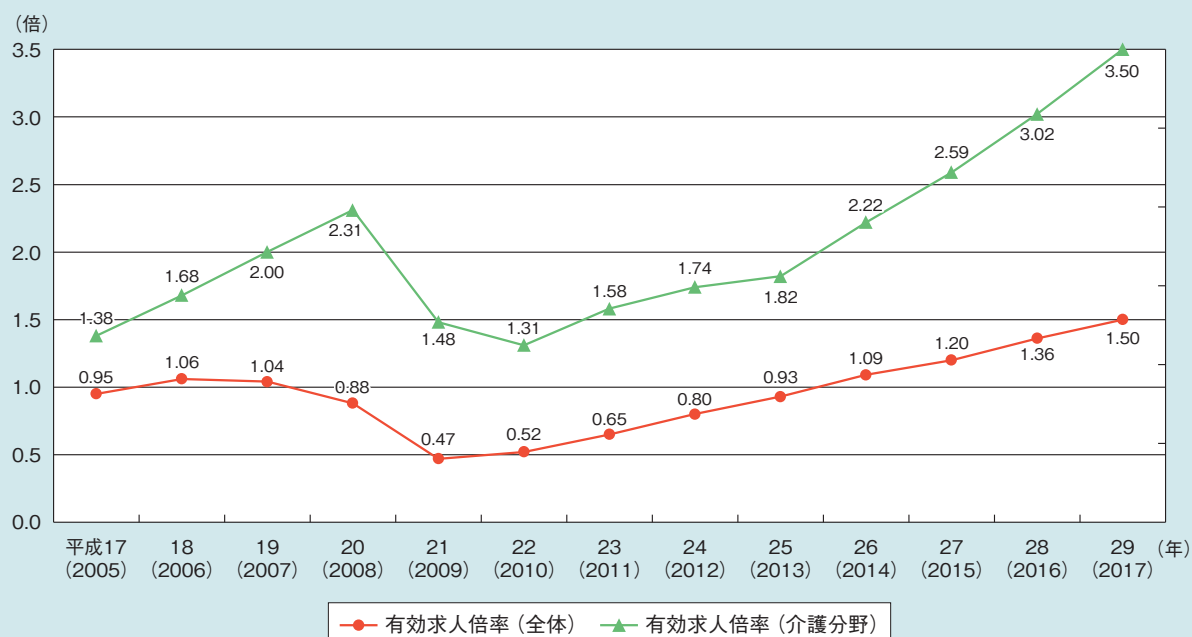


図1-2-2-19 有効求人倍率（介護分野）の推移



資料：厚生労働省「職業安定業務統計」
 (注) 有効求人倍率は年平均である。

3 学習・社会参加

(1) 60歳以上の者のグループ活動

ア 60歳～69歳の約7割、70歳以上の約5割弱が働いているか、またはボランティア活動、地域社会活動（町内会、地域行事など）、趣味やおけいこ事を行っている

60歳以上の者の社会活動の状況についてみると、60歳～69歳では71.9%、70歳以上では47.5%の者が働いているか、またはボランティア活動、地域社会活動（町内会、地域行事など）、趣味やおけいこ事を行っている。

男女別に70歳以上での社会活動の状況を見ると、男性は51.7%、女性は44.2%の者が働いているか、何らかの活動を行っている（図1-2-3-1）。

また、現在、何らかの社会的な貢献活動に参加しているとの回答の合計は約3割（図1-2-3-2で「特に活動はしていない」と回答し

た者を除いた計）となっている。

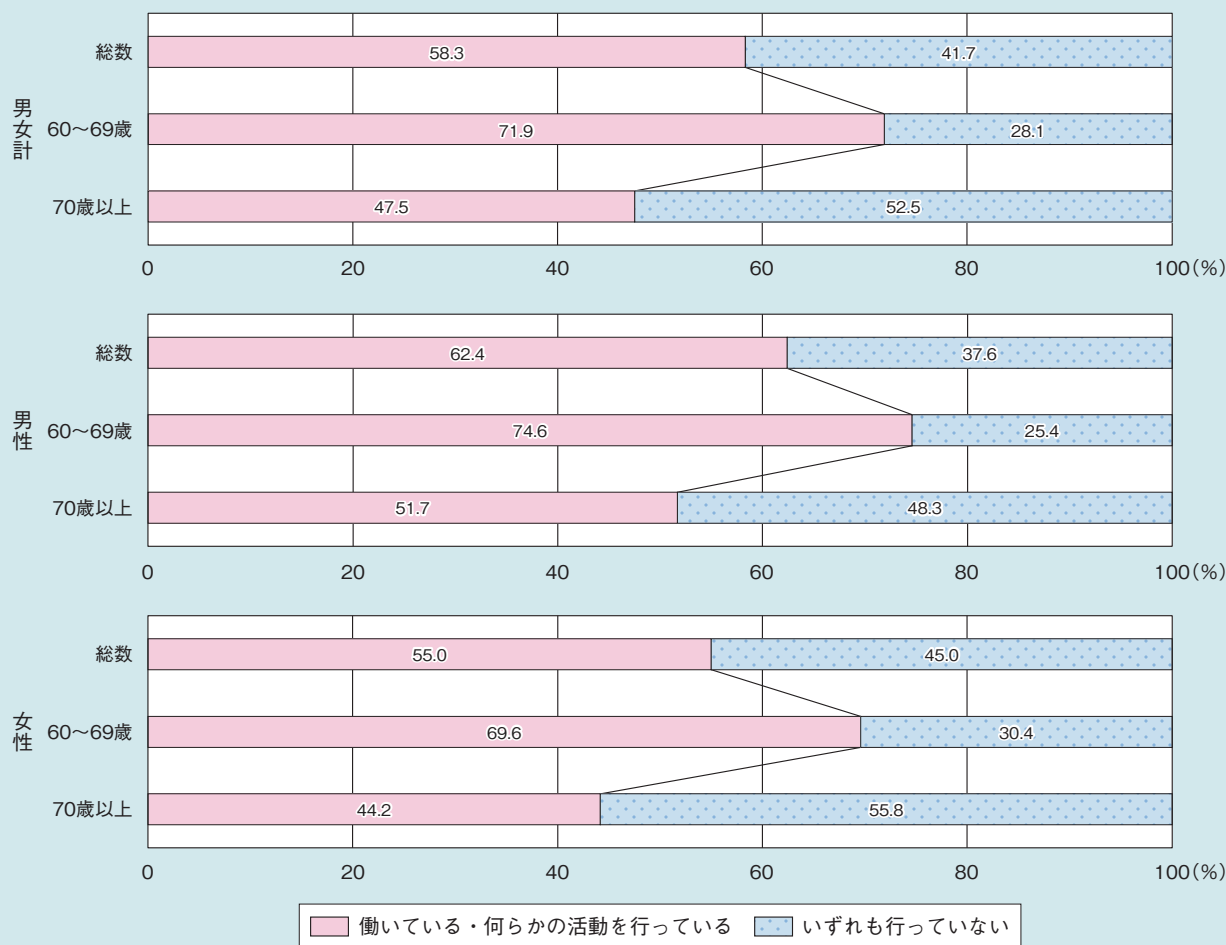
参加している活動は「自治会、町内会などの自治組織の活動」（18.9%）、「趣味やスポーツを通じたボランティア・社会奉仕などの活動」（11.0%）が多い（図1-2-3-2）。

社会的な活動（最も力をいれている活動）をしていてよかったことを尋ねたところ、全体では「新しい友人を得ることができた」（56.8%）や「地域に安心して生活するためのつながりができた」（50.6%）が5割台で高い（図1-2-3-3）。

今よりもっと活躍するために60代になる前からやっておけばよかったと思うことは何かと尋ねたところ、「やっておけばよかったと思うことはない」との回答が全体では52.6%、社会的活動に参加していると回答した人では43.5%といずれも最多であった。

やっておけばよかったと思う事項では、社会的活動に参加している人は、「社会活動の地域

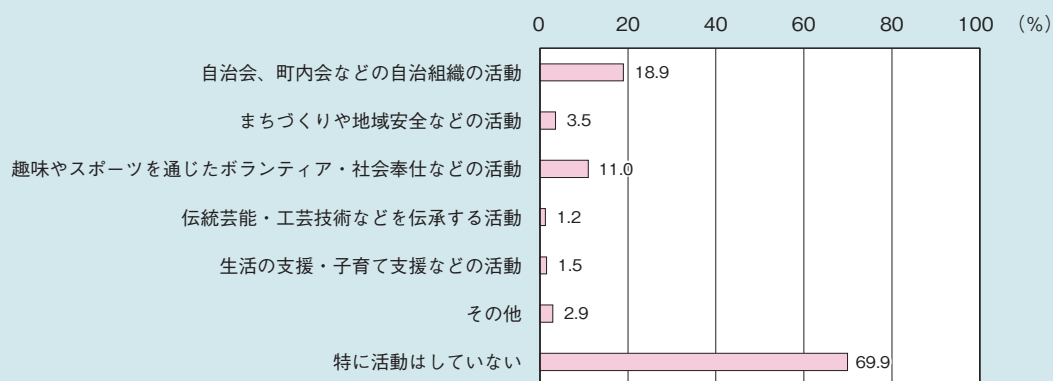
図1-2-3-1 60歳以上の者の社会活動の状況



資料：厚生労働省「平成28年国民健康・栄養調査報告」

(注) 質問は「あなたは現在働いていますか。または、ボランティア活動、地域社会活動（町内会、地域行事など）、趣味やおけいこ事をしていますか。」

図1-2-3-2 社会的活動（貢献活動）の実施状況（複数回答）

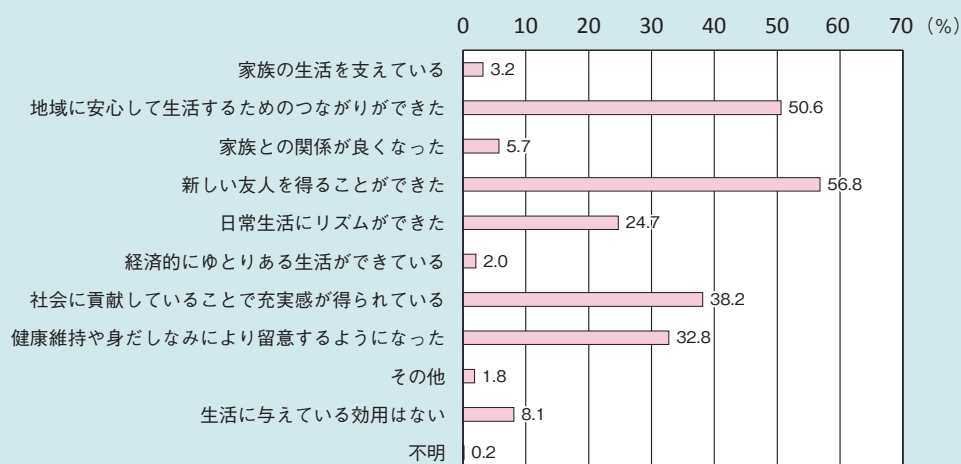


資料：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（平成28年）

(注1) 調査対象は、大分県と熊本県を除く全国の60歳以上の男女。

(注2) 質問は「あなたは現在、何らかの社会的な活動を行っていますか。あてはまるものをすべてお答えください。活動の内容が社会や家族を支える活動であっても、単なるご近所づきあいによるものは含みませんが、現在はたまたま一人で活動をされているが、本来は組織がある（組織を作る予定がある）という場合は含みます。」

図1-2-3-3 社会的な活動をしていてよかったこと（複数回答）



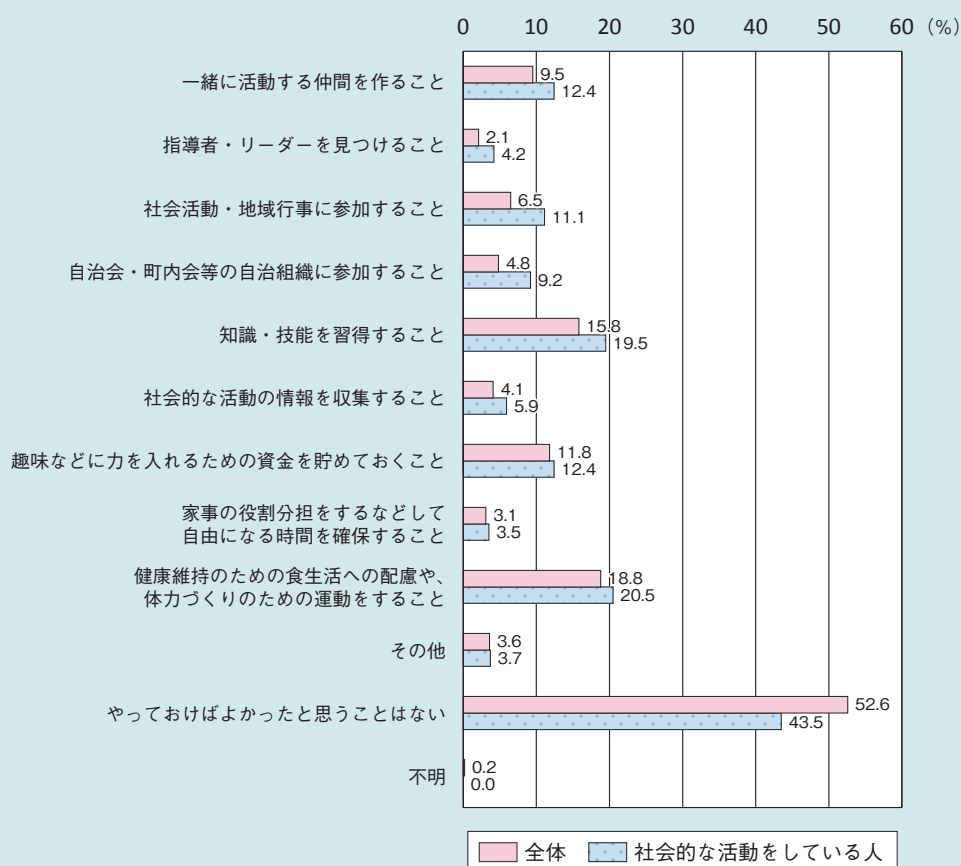
資料：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（平成28年）

（注1）調査対象は、大分県と熊本県を除く全国の60歳以上の男女。

（注2）回答条件は社会的な活動をしている者

（注3）複数の活動をしている場合は、最も力を入れている活動について回答している。

図1-2-3-4 60代前からやっておけばよかったと思うこと（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（平成28年）

（注）調査対象は、大分県と熊本県を除く全国の60歳以上の男女。

行事に参加すること」(11.1%)や、「自治会・町内会等の自治組織に参加すること」(9.2%)が多かった(図1-2-3-4)。

(2) 60歳以上の者の学習活動

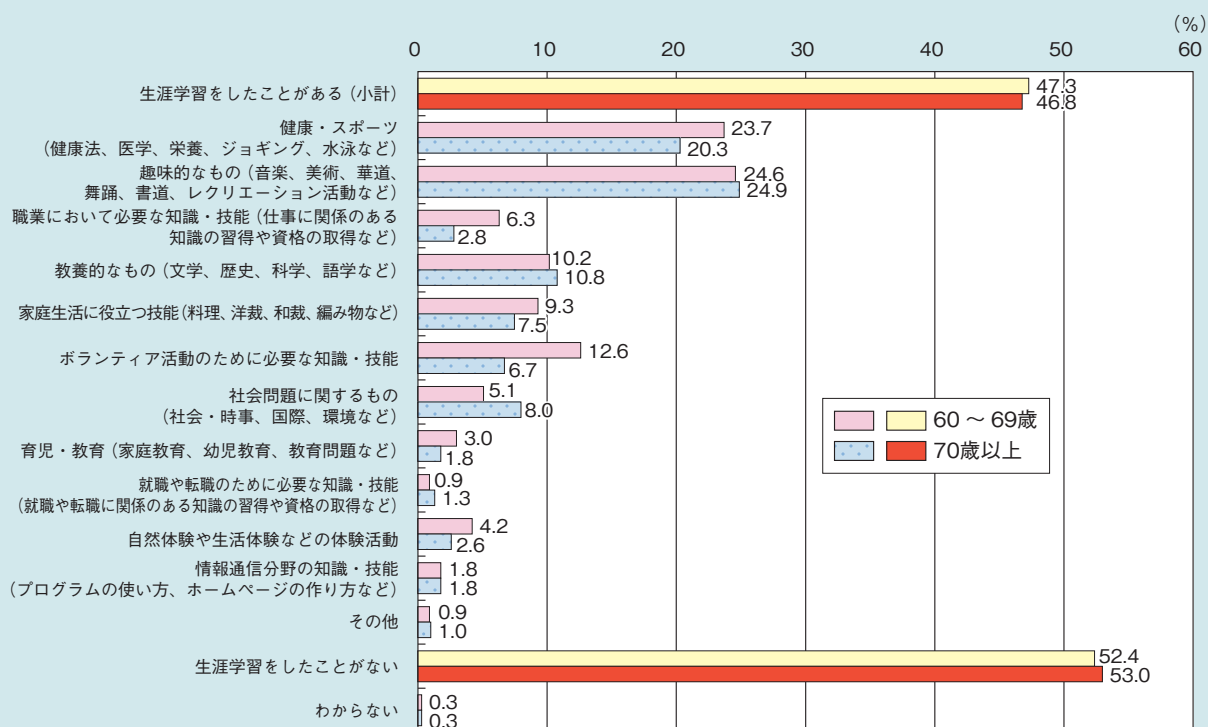
ア 生涯学習を行っている60歳以上の者は4割以上、内容は「趣味的なもの」、「健康・スポーツ」

60歳以上の者の生涯学習への参加状況についてみると、この1年くらいの間に生涯学習をしたことのある人は、60代でも70歳以上でも4割以上となっている。内容は、「趣味的なもの」が最も多く、60代で24.6%、70歳以上で24.9%、ついで「健康・スポーツ」が60代で23.7%、70歳以上で20.3%となっている(図1-2-3-5)。

イ 生涯学習を行うことによって、「人生がより豊かになっている」

この1年くらいの間に、「生涯学習をしたことがある(小計)」とする人に、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」が60代で59.5%、70歳以上で63.2%と最も多く、次いで「自分の健康を維持・増進している」が60代で55.7%、70歳以上で58.8%となっている。(図1-2-3-6)。

図1-2-3-5 60歳以上の者が行っている生涯学習(複数回答)

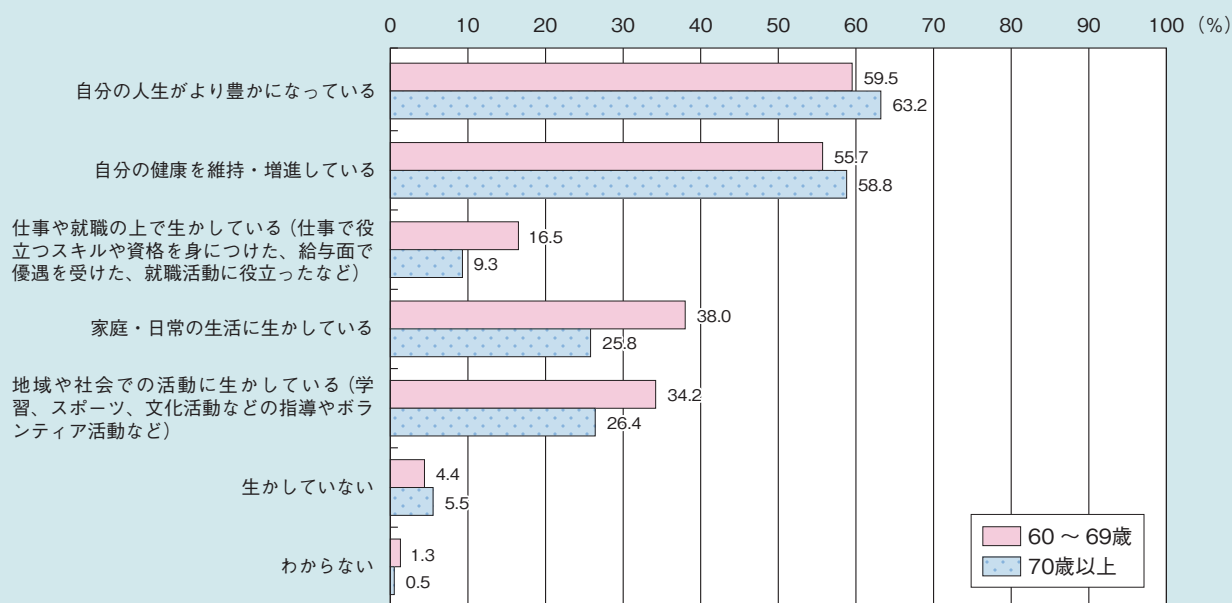


資料：内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」(平成27年)

(注) 調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者であるが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

図1-2-3-6

身につけた知識等の活用状況（複数回答）



資料：内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」（平成27年）

（注1）調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者であるが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

（注2）この1年くらいに「生涯学習をしたことがある（計）」とする者に質問した。

4 生活環境

（1）65歳以上の者の住まい

ア 高齢者（65歳以上）のいる主世帯の8割以上が持家に居住している

高齢者（65歳以上）のいる主世帯について、住宅所有の状況をみると、持ち家が82.7%と最も多い。ただし、世帯別にみると、高齢者（65歳以上）単身主世帯の持家の割合は65.6%となり、高齢者（65歳以上）のいる主世帯総数に比べ持ち家の割合が低い（図1-2-4-1）。

イ 65歳以上の者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の場所は「居室」

医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から国民生活センターに提供された事故情報によると、65歳以上の者が20歳以上65歳未満の人より住宅の屋内での事故発生の割合が高い。事

故の発生場所は、「居室」が45.0%と最も多く、ついで「階段」18.7%、「台所・食堂」17.0%が多い（図1-2-4-2）。

（2）60歳以上の者の日常の買物の仕方

内閣府が平成28（2016）年に行った調査では、日常の買い物について、自分でお店に行く」と回答した者に主たる交通手段を尋ねたところ、全体では「自分で自動車等を運転」が55.6%と高く、「徒歩」（28.4%）が約3割を占める。大都市では、約半数が「徒歩」（50.1%）と回答し、ついで「自分で自動車等を運転」（32.9%）、「家族等が運転する自動車やタクシー」（6.4%）との回答が多い。町村では、7割近くが「自分で自動車等を運転」（67.1%）と回答し、ついで「徒歩」（18.7%）、「家族等が運転する自動車やタクシー」（9.7%）との回答が多い（図1-2-4-3）。